

平成23年度「基礎・基本」定着度調査の結果を公表します

県教育委員会は、県内の児童生徒の学力の定着状況を調べ、今後の指導方法の改善・充実の資料とすることを目的に、毎年1月に小学校5年生、中学校1・2年生を対象に「基礎・基本」定着度調査を実施しています。

今回、県・地区・市の児童生徒の調査結果が出ましたので、市民の皆さんにお知らせします。

なお、市教育委員会では、本調査の結果を踏まえて、今後も各学校とともに児童生徒の学力向上に一層努めていきます。



■「基礎・基本」定着度調査の結果(平成24年1月実施)

□各学年の教科別の通過率(%) ◇は県平均以上の教科、◇は地区平均以上の教科

学年	教科	国語	社会	算数 数学	理科	英語
小5	鹿屋市	◇72.4	◇71.3	◇69.2	◇72.7	
	大隅地区	71.3	69.0	67.6	71.0	
	県全体	72.4	69.2	69.6	72.3	
中1	鹿屋市	◇74.2	68.5	◇65.5	◇63.9	◇77.3
	大隅地区	72.8	68.6	65.5	62.5	75.7
	県全体	74.0	69.6	66.7	63.9	77.0
中2	鹿屋市	◇64.3	59.4	◇62.8	61.2	◇67.1
	大隅地区	63.4	60.2	61.8	62.0	66.1
	県全体	65.7	63.4	65.7	64.6	69.8

小学校＝算数以外県平均を上回っています。概ね定着が図られています。

中学校＝中学1年生では、国語・理科・英語で県平均を上回っていますが、中学2年生では、国語・数学・英語で地区平均を上回るにとどまりました。基礎的・基本的な知識・理解の定着に向けた一層の取組が必要です。



□各教科の課題

教科名	各教科における改善策
国語	○登場人物の心情や場面についての描写(会話・気持ち・行動・情景等)など、叙述に即して読んだり、人物像を考えたりする学習活動の充実を図ります。 ○中心部分と付加部分、事実と意見の読み分けなどの文章構成や論理的な展開を把握させ、目的や必要に応じて要約させる授業の充実を図ります。 ○新しく学習した漢字や難しい言葉を辞書で引いたり、日頃から使用したりする習慣の定着を図ります。
社会	○地球儀・世界地図・縮尺等の地図の見方や年表を活用した主な時代と主な出来事・主な人物の定着を図ります。 ○統計資料やグラフ等の資料から必要な情報を読み取るために、資料を見る視点(タイトル、単位・目盛り等)や活用する能力を身に付けさせます。 ○「調べる→まとめる→考える」という問題解決的な学習の一層の充実を図ります。
算数・数学	○授業中に必ず定着の場面を確保し、基礎的・基本的な知識・技能の定着の徹底を図ります。 ○授業の中で、式や図、数直線、グラフ、表などを使って、根拠を基に自分の考えを筋道立てて説明させる授業の展開を図ります。
理科	○全員に課題意識をもたせて実験を行わせるとともに、重要語句や実験器具の名称・操作技能について、確実な定着を図ります。 ○「予想→実験方法発想→実験方法の選択→実験→結果の考察」といった問題解決的な学習の充実を図ります。
英語	○授業中に題材や状況設定を工夫して、書く必然性のある表現活動を行います。また、新しく学習した単語や表現は、授業や家庭で繰り返し練習を行わせ定着を図ります。 ○読み取る視点を与えた上で、まとまりのある英文を短時間で読む学習の一層の充実を図ります。

■学力向上の取組

□調査実施後の取組

調査終了後、職員研修等で自校の児童生徒の誤答傾向などについて分析しました。定着が不十分な内容については、補充指導や個別指導を行い、再度定着を図りました。

□今年度の学力向上の取組

学校は、調査結果をもとに授業改善を図り、基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させるために「わかる・できる」授業づくり(鹿屋定着トレーニング)に努めるとともに、定着が不十分であった内容を中心に、補充指導に取り組みます。また、身に付けた基礎的・基本的な知識・技能を活用し、言語活動を通して、思考力・判断力・表現力を高める指導の充実に取り組みます。

□家庭での学習習慣の確保

市では、「かのや宅習1・2・3運動」を推進し、保護者と連携しながら学習習慣の形成を図るなど、家庭学習の充実に取り組み、児童生徒の学力の向上を目指します。特に、学年に応じた家庭学習の時間の確保や家庭読書の啓発に積極的に取り組みます。

【問い合わせ】市学校教育課(6階) ☎0994-31-1137